



国際認証の取得を目指して

WHO世界基準の安心・安全なまちづくり  
セーフコミュニティだより

第15号

## 安心・安全なまちづくりシンポジウムを開催

秩父市の各対策委員会の取組経過について報告や、既にセーフコミュニティの認証を取得している自治体から講師をお招きして講演していただきました。

各対策委員会では、これまで5回の会議を開催しています。ワークショップにより、秩父市の問題について意見交換し、重点課題を抽出してきました。そして、課題を解決するためには、どのような人や環境に対して、何をすれば良いのか、議論してきたところです。当日は、各対策委員会から、その取組経過を報告しました。

続いて、神奈川県厚木市交通安全指導員協議会長の田口孝男氏から、「地域が支える学校の取組」について、ご講演いただきました。同市の清水小学校では、校内外での事故やケガを防ぐために、例えば、校舎の廊下に衝突防止ミラーを設置したり、自転車用ヘルメットの購入・着用を保護者の方に呼びかけるなどの活動を行ったりしているそうです。PTA会長自らがヘルメットをかぶって、ヘルメット着用を呼びかけるなど、熱心に取組んでいる様子がかげえました。

また、長野県箕輪町北小河内セーフコミュニティ協議会長の小

出嶋文雄氏ら6名の方に、「自ら築く自主自立のまちづくり」についてご講演をいただきました。同地区は、平成18年に集中豪雨の土砂災害被害を受けたことをきっかけにして、セーフコミュニティのモデル地区に指定されたそうです。活動の基本は「協働」で、行政任せではなく、「自分たちの安全・安心は自分たちで考えよう」をモットーに、住民が一体となって、継続性のあ

る活動をしているとのことでした。  
秩父市でも今後、先進自治体の取組みを参考にしながら、秩父市に適した安心・安全なまちづくりを進めてまいります。



高齢者の安全対策委員会の報告の様子